



令和4年度 事業実績について（報告）



1 総括

- 令和4年度は新型コロナの影響が緩和されつつある一方、ウクライナ情勢、燃料・肥料・資材の高騰など、農業を取り巻く環境は依然と厳しいものでしたが、3年ぶりにスイーツフェアや産業フェスタなどの大型イベントが開催されるなど WITH コロナに向けて動き始めた1年となりました。
- 特に課題である若い世代への産地PRや地産地食の推進では、SNS等の電子媒体を活用した情報発信を強化し、各イベントにおいて、子育て世代を意識した市内産農産物の消費促進及び農業者・農業に対する理解を深化させる取組を地道に継続しました。
- また、品評会の開催協力小売店や地産地食応援店の拡大など関係機関との連携強化に努めました。
- 再開した大規模イベントの集客状況や参加者からいただいた声などから、取組については一定の成果があったと考えておりますが、引き続き、WITH コロナ・AFTER コロナにおける効果的な取組を模索し展開していく必要があります。

2 協議会の開催

- ① 第1回幹事会 5月9日（月） 第1回協議会 5月17日（火）
- ② 第2回幹事会 11月22日（火） 第2回協議会 11月28日（月）

<内容>

- ① 前年度事業実績及び収支決算報告、事業計画承認
ブランドマーク普及拡大助成金交付要綱の改訂承認
- ② 前期事業実績報告、後期事業計画及び令和5年度事業の進め方承認
ブランドマーク更新承認（幹事会）

3 2022 豊田市農林畜産物品評会の開催



(1) 品評会の開催

品目	出品数	実施日	実施場所
桃	19	7月14日	トヨタ生協 メグリア本店
ぶどう	生産者の収穫時期が合わず、出品数確保できずに中止		
なす	24	9月1日	トヨタ生協 メグリア本店
かぶせ茶	7	9月10日	産業フェスタ 公共PRブース
てん茶	9		
梨	12	9月13日	イオンスタイル豊田
いちじく	27		

しいたけ	6	11月4日	JAグリーンセンター松平店
鶏卵	6	12月1日	JA産直プラザ
サニーレタス	7	12月16日	JA産直プラザ
白菜	7		
ねぎ	生産者の収穫時期が合わず、出品数確保できずに中止		
いちご	6	2月17日	イオンスタイル豊田

＜効果・課題＞

○開催協力小売店の拡大（メグリア）ができたほか、小売店との連携により受賞農産物の店内展示や品評会品目の特設売場の設置などが行われ、市民へのブランド品目のPRや販売促進に繋げることができた。

●依然として試食が難しい会場もあるため、他手段による効果的なPR手法の検討が必要。

（2）2022 豊田市農林畜産物品評会金賞授与式の開催

《日 時》 令和5年3月13日（月）

《場 所》 JAあいち豊田本店 5階 特別会議室

《金賞受賞者一覧》

品目	出品者		品目	出品者	
	住所	氏名		住所	氏名
桃	舞木町	加藤 明彦	しいたけ	西岡町	前田 雅子
なす	松平町	加藤 誠一	鶏卵	大島町	近藤養鶏場
かぶせ茶	豊栄町	石川 龍樹	サニーレタス	拳母町	森田 賢
てん茶	吉原町	野場 義尊	白菜	亀首町	村松 正博
梨	乙部町	梅村 和也	いちご	畝部東町	酒井 由美子
いちじく	和会町	鶴田 猛士			



4 とよたの農産物のブランド力向上



（1）トップアスリートへの特産品贈呈（トップセールス）

北京オリンピックやWRCでメダルを獲得したわがまちアスリートなどに対し、当協議会より特産品のイチゴ・桃、梨、シンビジウムを贈呈した。

<取組実績>

- ・フィギアスケート 三浦 璃来選手（4/13 イチゴ）
- ・フィギアスケート 宇野 昌磨選手（4/26 イチゴ）
- ・新体操 フェアリージャパン（8/3 桃）
- ・WRC 勝田選手、安藤選手、佐々木選手、洪選手（11/20 愛宕）
- ・WRC 勝田選手（12/10 シンビジウム）

<効果・課題>

- メディア露出による、市外へのブランド産品 PR と、市民に対する郷土愛の醸成。
- 一過性のものにしなため、継続的な取組が必要。



(2) リポビタンDカップ 出展 PR（7月2日）

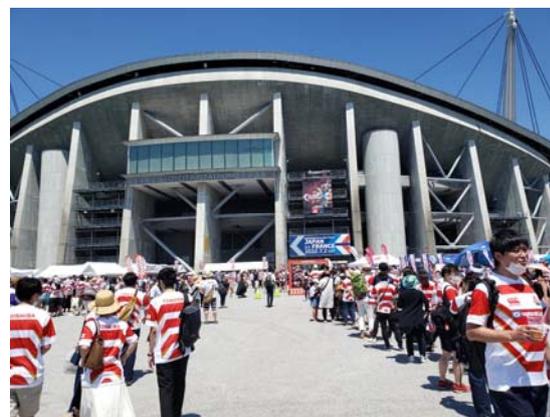
豊田スタジアムで行われたラグビーの国際試合に出展し、市内外からの観客に対して、ブランド農産物である桃や梨のPRを行った。

<取組実績>

- ・豊田の桃を使ったソフトクリーム・梨シャーベット
桃（青果）の販売
- ・愛宕梨のレプリカ展示、とよた農産物ガイドの配布

<効果・課題>

○多くの来場者に桃や梨の産地としてのPRができた。特に愛宕梨のレプリカに興味を持つ方が多く、農産物ガイドを手取る様子も見られ、市内産農産物の認知度向上に寄与することができた。



- 市外の方は移動などの関係で青果をその場で購入することは少ないため、ECサイトやふるさと納税などで購入できる市内産農産物の情報を収集し、それも合わせてPRしていくと効果的である。



(3) 第8回「とよた絶品スイーツフェア」の開催(9月19日)

豊田プレミアムスイーツクラブとの連携により3年ぶりに開催することができた。市内産農産物等を使用した彩り豊かなスイーツを提供することで、若者世代や子育て世代へ地産地食を推進するとともに、桃やいちじくなど旬のブランド農産物をPRした。

<開催内容>

- ・WITH コロナを意識したテイクアウト方式のイベントに変更。事前販売のチケットと交換で、スイーツクラブ各店のパティシエが考案したオリジナルスイーツ5つを選択。
- ・その他、農産物販売、菓子作り体験、豊田産の桃を使ったソフトクリームの試食など。

<効果・課題>

○事前チケット 200 枚が即完売した。また、多くのメディアで取り上げられるなど、スイーツを通じ、市内産農産物の魅力を市内外の参加者へ発信することができた。

- 入場や交換の仕組みがわかりにくいという声をいただいたため改善が必要。



つたや製菓舗山之手店

猿投の桃の葛ようかん
栗の牛乳ぷりん
猿投の桃のマリトツオ



松華堂宮土店

豊田抹茶と旭栗の和テリーヌ
豊田産梨のグラニテ
豊田ブルーベリーのチーズパイ



ソルボンヌ洋菓子店

豊田産ブルーベリータルト
レモンケーキのチョコレート掛け
豊田産抹茶のひとくちフィナンシェ



三河屋

豊田産いちじく蒸しどら焼き
抹茶あんの水饅頭
レモンあんの水饅頭
アマビエの栗入りどら焼き

(4) シンビジウムのPR展示(11月17日~28日)

豊田花き園芸組合と連携し、市内外に豊田市のシンビジウムの魅力を広めるとともに、11/25~27にJA産直プラザ及び各グリーンセンターで開催される「洋ラン即売会」のPRをかねて、市内外の利用者が多い2つのホテルで展示を行った。

<取組実績>

- ・シンビジウム展示(名鉄トヨタホテル15鉢、ホテルトヨタキャッスル6鉢)

<効果・課題>

○シンビジウム消費層と親和性のあるホテル利用者に向けたPRができた。

- PRによる販促効果がわかりづらい。



(5) 市の SNS アカウントと連携したブランド商品の PR

茶、すいか、桃、愛宕梨などの旬に合わせた情報発信を実施。

ジブリパーク開園に合わせ、市と連携して開催した「足をのぼせば となりのとよたキャンペーン」において、赤とんぼ米の提供を行った。

(6) マスメディアを通じた産地 PR

当協議会に対する報道機関からの取材相談に対し、随時、取材先及び出演者等の調整を行い、産地 PR に繋げることができた。

<取組実績>

① CBC テレビ「花咲かタイムズ」

9月3日、梨部会長の梅村和也さんが3時のヒロインと出演し、特産品の梨をPRした。

② メ〜テレ「ドデスカ」

9月1日、「濱隼の旬感めし」のコーナーで、梨部会役員の青木さんと JA 女性部会員が出演し、梨と梨を使った料理レシピを紹介しPRした。



(7) 機関連携による産地 PR

豊田市などで開催された WRC の関連イベントにおいて、関係機関と連携した産地 PR を行った。

<取組実績>

① 「全国一斉オートテスト 2022 IN 豊田」

11月3日、「ラリーオータム 2022」の一環として、豊田市公設地方卸売市場を会場に開催された、運転の正確さを競う「全国一斉オートテスト 2022 IN 豊田」において、入賞者に対し豊田市産の米などを贈呈した。

② 「WRC 旭高原宿泊観戦プラン “お米の炊き方体験”」

11月11日、ツーリズムとよたが、観戦宿泊プランのプログラムの一つとして、ラリー観戦者に対し、地元産ミネアサヒの炊事体験と食事提供を実施。当市ブランド農産物のパネル展示等も行い、市内産農産物への関心を高めた。



5 地産地食推進事業

(1) 地産地食応援店の拡大

市内産農産物及び農産物を使用した加工品を取り扱う店舗の情報収集を行い、応援店の登録を積極的に呼びかけた。

<登録店舗数>

年度	小売店	飲食店	累計
3	98 店舗	114 店舗	212 店舗
4	108 店舗	112 店舗	220 店舗



<効果・課題>

○新規登録店舗 22 店。のぼり等の資材により、視覚による PR や市民の市内産農産物を購入しやすい環境づくりが促進できた。

- 情報更新のため既存登録店舗の実態確認を行ったところ、コロナの影響などで閉店した店舗が散見されたが、全体では増加となった。応援店との連携事業等の開催など、加入によるメリットを検討する必要がある。また登録店拡大に向け、事務局のみでの情報収集は限界があり、構成員においても情報があれば事務局への提供をお願いしたい。

(2) 地産地食 Facebook による情報発信

<取組実績> 投稿回数 62 回、フォロワー 1,160 人 (前年比 86 人増)

<効果・課題>

○旬の情報をタイムリーに発信ができ、フォロワーも増加している。

- イベント中止情報など対象者にすぐにお知らせ可能な他の SNS 媒体の活用の再検討。



(3) 食べまい豊田のお米キャンペーン (10月22日～11月30日)

期間中に新米を購入した方に関し、抽選で特産品があたるキャンペーンを JA あいち豊田とメグリアとの共働事業として開催。

令和 3 年度に試行販売し好評であった「にじのきらめき」について、4 年度より本格販売を開始。

キャンペーンの開催に先立ち、JA あいち豊田とメグリアが市長を訪問し、PR を行った。

<取組実績>

応募総数 254 通

<効果・課題>

○前年度を上回る参加者を得るなど、市内産米の PR、消費促進に寄与。

- 更なる応募数の増加、消費拡大に向けた P R 手法の検討



(4) 地産地食冒険隊～とよたの梨編～（8月29日）

若い世代への産地PRや地産地食を推進するため、小学校高学年及びその親4組を対象とした農業体験型イベントを実施した。

<開催内容>

卸売市場見学、梨や地産地食に関する講義、ほ場での収穫体験、選果場見学

<効果・課題>

○実施後のアンケート調査では、全ての参加者において、地産地食及び農業・農産物への理解が深まり、市内産農産物の優先購買を心がけるようになったとの回答を得た。

- 今後の事業展開の検討。募集人数が4組と少ないため、品目や1農家あたりの受け入れ人数を拡大し、より多くの人に参加できる農業体験イベントとして開催できるか検討していきたい。



(5) 農産物直売所スタンプラリー（7月30日～10月31日）

農産物直売所の相互周遊性を高めながら市内直売所の認知度向上を図るスタンプラリーを、豊田市農産物直売所連絡協議会との連携により、各店舗で感染防止策を講じたうえで実施した。

<取組実績>

応募総数 211 通

<効果・課題>

○昨年度は、JA産直プラザ及び各グリーンセンターと連携できたことで、参加者が格段に増加した。また、全ての直売所を周る参加者も多くおり、各直売所の認知度や直売所間の周遊性の向上に繋げることができた。

- スタンプラリー参加からリピーター獲得につなげる魅力的な直売所づくりへの工夫。



(6) 電子媒体を活用した農産物 PR の実施

先述の市公式 SNS の活用や地産地食 Facebook の運用に加え、旬に合わせた市役所デジタルサイネージでの PR のほか、3 年度作成した PR 動画を各イベント時に放映するなど、電子媒体を活用した農産物 PR に取り組んだ。



(7) 斡旋販売の協力

新型コロナウイルスの影響を受けた本市ブランド産品に対する斡旋販売協力を関係機関と連携し、行った。

① 自然薯

販売数 : 223kg

販売金額 : 773,600 円

② 茶 (とよた茶応援セット)

販売数 : 217 セット

販売金額 : 328,500 円

③ シンビジウム

販売数 : 138 鉢

販売金額 : 455,400 円



6 輸出支援

(1) 輸出実績

① 桃【黄美娘、ゴールデンピーチ】

輸出先 : 香港、タイ

輸出量 : 1,235 k g (前年比▲80 k g)

販売額 : 980,000 円 (前年比▲212,180 円)

② 梨【愛甘水、幸水、あきづき、愛宕】

輸出先 : 香港、タイ

輸出量 : 1,780 k g (前年比 243 k g)

販売額 : 1,350,500 円 (前年比 317,440 円)

<概況>

- ・輸出の中心である中秋節が昨年は9/10と早く、ゴールデンピーチの出荷が間に合わなかったため、輸出量が減少した。
- ・また、航空費用の高騰、船便スケジュールが出荷日と合致しなかったことも輸出減の要因となっている。
- ・今年度は、新たな輸出先を検討し、輸出できる体制を整える。また、現地プロモーションが実施できるよう準備していく。

(2) 輸出に取り組む農業者への支援

- ・「とよた農産物輸出推進事業助成金」により、輸出に取り組む茶農家に対し、輸出に関するサンプル費、商談会参加費、パッケージ作成費、輸出に係る資格や認証にかかる費用を支援した。

<効果・課題>

- 輸出拡大に取り組む農業者の負担軽減。挑戦的取組の動機づけ。
- 事業周知の強化。

(3) 梨の海外プロモーション支援 ⇒ コロナ禍の影響により中止



7 イベント出展

(1) とよた産業フェスタ(9月10日~11日)@豊田スタジアム

<取組実績(農林マーケット出展者及び出展内容)>

	団 体 名	品 目
1	JA あいち豊田 営農生活部	米、桃、桃ソフトクリーム
2	JA あいち豊田 梨部会	梨
3	三州足助公社 百年草事業部	炭焼きフランクフルト、手作りパン
4	松平観光協会	市内産はちみつなどを使用したかき氷
5	農村輝きネット・豊田加茂	野菜、果実、花、五平餅
6	豊田みよし4Hクラブ	米、梨、茶、農業機械展示
7	みのわ食堂	鮎の塩焼、鮎ご飯
8	大野瀬加工場	五平餅
9	愛知県豊田加茂養蜂組合	蜂蜜
10	御立産直	野菜
11	(株)香恋の里 手づくり工房 山遊里	ハム、ソーセージ
12	豊田市茶業組合	茶
13	株式会社 山恵	猪鹿炭焼きフランク(ジビエ)
14	豊田農ライフの会	茄子、ミニトマト、さつま芋、ネギ
15	杉田組(ブルーベリーのかみち)	ブルーベリーアイス、パフェ、スムージー
16	餅神商店 もものみせ	杵つき餅、あんころ餅、赤飯、焼餅
17	豊田・加茂菜の花プロジェクト	菜種、菜種加工品、ネギ

18	豊田森林組合	間伐材ベンチキット
19	愛知県豊田加茂農林水産事務所林務課	県産木材クラフト体験、あいちの森林クイズ
20	有限会社 おど観光やな	鮎の塩焼き、鮎ご飯
21	石野竹工芸グループ	竹工芸品
22	とよたひまわりポーク生産協同組合	ひまわりポーク（生姜焼き、みそ焼き）
23	MYC	市内産柿を使用したカレーパン
24	豊田市農産物ブランド化推進協議会	農産物クイズ・抽選会

<農林マーケット来客数及び売上>

	9月10日(土)	9月11日(日)	合計
延べ来客数	3,200人	3,800人	7,000人
総売上	1,500,000円	1,600,000円	3,100,000円

8 トピックス

○ 三河中山間ミネアサヒが米の食味ランキング最高位 特Aを獲得！！

三河中山間ミネアサヒが米の食味ランキングで2年ぶりに最高位である特Aに返り咲きました。

昨年の全国的な猛暑により稲作が大きなダメージを受けた中で、高い評価を獲得されたのは農家の皆さんの努力の賜物だと思います。

また、環境に配慮した栽培方法で作られる特別栽培米ミネアサヒを「赤とんぼ米」として販売もしており、こちらは米・食味分析鑑定コンクール国際大会で特別優秀賞を獲得しました。ダブル受賞おめでとうございます。

